

平成 22 年 6 月 4 日現在

研究種目：基盤研究(C)  
研究期間：2006～2009  
課題番号：18520617  
研究課題名（和文）東アフリカ牧畜社会における「稀少資源をめぐる競合」ドグマの人類学的再検討  
研究課題名（英文）Anthropological Reconsideration of the Dogma of “Competition over Scarce Resource” among the Pastoral Societies in East Africa.  
研究代表者  
曾我 亨 (SOGA TORU)  
弘前大学・人文学部・准教授  
研究者番号：00263062

研究成果の概要（和文）：東アフリカ牧畜社会では、近年、民族紛争が増加している。報道や学術的言説は、こうした紛争を家畜や牧草や水などの稀少な資源をめぐる競合と説明する傾向がある。しかし、こうした紛争は、民族エリートたちによる扇動の結果と思われる。本研究は東アフリカ牧畜社会において民族主義が興隆する以前の時代に焦点をあて、異民族による生態資源の共同利用の諸相を分析した。その結果、異民族間には生態資源と労働力の交換や、生態資源をめぐる棲み分けが行われていたことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：There are increasing the conflicts among the pastoral societies in East Africa. The mass media as well as scholar tend to explain that rival pastoralists compete for the scarce resources such as livestock, green pasture and water in the semi-arid region. However, such conflict and the dogma of “competition over scarce resource” seem to be instigated by the ethnic political elite. In order to reconsider the dogma of “competition over scarce resource,” this study clarifies the complex aspects of sharing system of the ecological resources among the pastoral societies before the nationalism prevailed among pastoral societies in East Africa. As a result, it became clear that the different ethnic people coexisted and developed sharing system. For example, the cattle pastoralist who owned water well allowed the camel pastoralist to access their water resources in exchange of their labor force. The cattle pastoralist and camel pastoralist also segregated themselves spatially according to the need of livestock. This segregation decreased the competition over the ecological resource such as green pasture.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,000,000	0	1,000,000
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
総計	3,500,000	750,000	4,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：民族紛争、稀少資源、競合、避難民、ガブラ

## 1. 研究開始当初の背景

エチオピアは1991年にEPRDFが政権を奪取して以来、ティグレ・アファール・オロモ・ソマリなどの「大民族」名を冠した州を基盤とする連邦制を採用し、地方分権を進めてきた。これにより「大民族」は広範な自治を手にしたが、州境においては、資源の確保をめぐる「大民族」間の紛争が生じるようになってきた。

こうした紛争は、「稀少資源をめぐる競争」として理解されることが多かった。しかし、実際には民族エリートたちが「資源をめぐる競争」言説を生み出し、民族対立を煽っているように思われた。

こうした政治的企てから目を背け、現代の紛争を「稀少資源をめぐる競争」と理解することは、紛争を生物学的・本質主義的原因に帰着させてしまうことを意味する。しかし牧畜民の共存的未来を構築するためには、本質主義的理解を退け、資源をめぐる異民族の共存の論理を明らかにすることが重要であると思われた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、フィールドワークに基づき、異民族による「稀少資源をめぐる競争」という考え方を批判的に検討することである。「稀少資源をめぐる競争」ドグマを棄却するには、民族エリートたちが人びとを紛争へと動員する以前の状況を明らかにすればよい。予備的調査の結果や牧畜民研究者の知見を総合すると、ナショナリズム運動が盛んになる以前の1960年代以前において、牧畜民は必ずしも稀少資源をめぐる競争しなかったと予想される。そこで本研究は、1960年代以前の民族間関係を解明し、諸生態資源をめぐる状況を明らかにする。

## 3. 研究の方法

近年、紛争が多発しているオロミア州とソマリ州の境界領域において現地調査を行なう。現地調査では、紛争の対象となっている井戸・牧草地を題材にとりあげる。その上で、

- (1) これらの生態資源が、1960年代以前には、異なる民族によってどのように利用されてきたかを詳細に復元していく。
- (2) 生態資源が異民族間で共有される仕組みを、規範・制度的側面だけでなく、それらを運用する実践的側面についても詳細な聞き取り調査をおこなう。
- (3) 生態資源をめぐる異民族間の問題が過去に存在している場合には、その直接的原因と帰結にいたるまでの経緯を明らかにする

とともに、その問題が生じるに至った根元的な原因（生態学的・国内政治学的・国際政治学的）を解明する。

## 4. 研究成果

本調査はラクダ牧畜民ガブラを主たる対象として行った。ライフ・ヒストリー調査の結果から、1960年代以前、南部エチオピアではガブラが、ウシ牧畜民ボラナと居住域をおおきく重複させて暮らしていたことが明らかになった。

- (1) その重複する地域は、地下水が潤沢な地域であった。地下水位が低く、巨大な井戸が掘られていた。そのため水を汲みだすには、大量の労働力を必要としていた。井戸はボラナによって所有されていたが、ガブラは水汲みのための労働力として期待されていた。
- (2) ボラナはウシに強く依存した牧畜経済を営んでおり、水を頻繁に汲む必要があった。ボラナは水を汲みあげるための労働力が慢性的に不足していた。一方、ガブラはラクダに依存しており、水への希求は比較的低かった。ボラナにとって井戸の水は「稀少な資源」であったが、ガブラの労働力をより必要としており、異民族による資源の共同利用がおこなわれていた。
- (3) 井戸の近くの牧草地も稀少な資源といえるが、ボラナとガブラは空間的に棲み分けることで競争を回避していた。ウシには水を頻繁に飲ませる必要があるため、ボラナが井戸の知覚の牧草地を利用し、水への希求が強くないラクダを飼育するガブラは井戸から離れた牧草地を利用していた。
- (4) 2000年代に行われた選挙運動についての聞き取り調査から、民族エリートが水場や牧草地などの生態資源の稀少性を強調し、異民族を排除するよう呼びかけていたことが確認された。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

- ① Toru Soga, Changes in Knowledge of Time among Gabra Miigo Pastoralists of Southern Ethiopia, *Nilo-Ethiopian Studies*, 査読有、10号、2006、23-44
- ② 曾我亨, 歴史への生態人類学的接近、*アフリカ研究*, 査読有、68巻、2006、128-131
- ③ 曾我亨, 過去を写生する-歴史への生態人類学的接近法-, *アフリカ研究*, 査読有、69巻、2006、121-136

④Toru Soga, Sharing System of the “Scarce Resources” in Southern Ethiopia、*Proceedings of the 16th International Conference of Ethiopian Studies*、査読無、2009、357-367

〔学会発表〕(計4件)

①Toru SOGA, Sharing System of the “Scarce Resources” in Southern Ethiopia、International Conference for Ethiopian Studies、2007年7月4日、トロンハイム大学(ノルウェー)

②曾我亨、霊長類学と人類学:稀少資源をめぐる競合ドグマをめぐって、第2回人類学関連学会協議会合同シンポジウム、2007年7月16日、滋賀県立大学

③曾我亨、津軽とエチオピア、飢餓の経験、第17回日本ナイル・エチオピア学会、2008年4月19日、弘前大学

④曾我亨、牧畜民として、ゲリラとして、難民として生きた1970年代、第42回文化人類学会研究大会、2008年5月1日、京都大学

〔図書〕(計5件)

①Toru SOGA (分担執筆)、ASAFAS Kyoto University、*Mobility, Flexibility, and Potential of Nomadic Pastoralism in Eurasia and Africa*、2007、139(該当箇所137-139)

②曾我亨(分担執筆)、弘文堂、『自然の資源化』(資源人類学 第6巻)、2007、350(分担箇所205-249)

③曾我亨(分担執筆)、東信堂、近代化のフィールドワーク、2008、208(分担箇所18-35)

④曾我亨(分担執筆)、明石書店、(講座世界の先住民族)サハラ以南アフリカ、2008、394(分担箇所161-182)

⑤曾我亨(分担執筆)、京都大学学術出版会、集団—人類社会の進化、2009、364(該当箇所203-222)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

曾我 亨 (SOGA TORU)  
弘前大学・人文学部・准教授  
研究者番号：00263062

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：